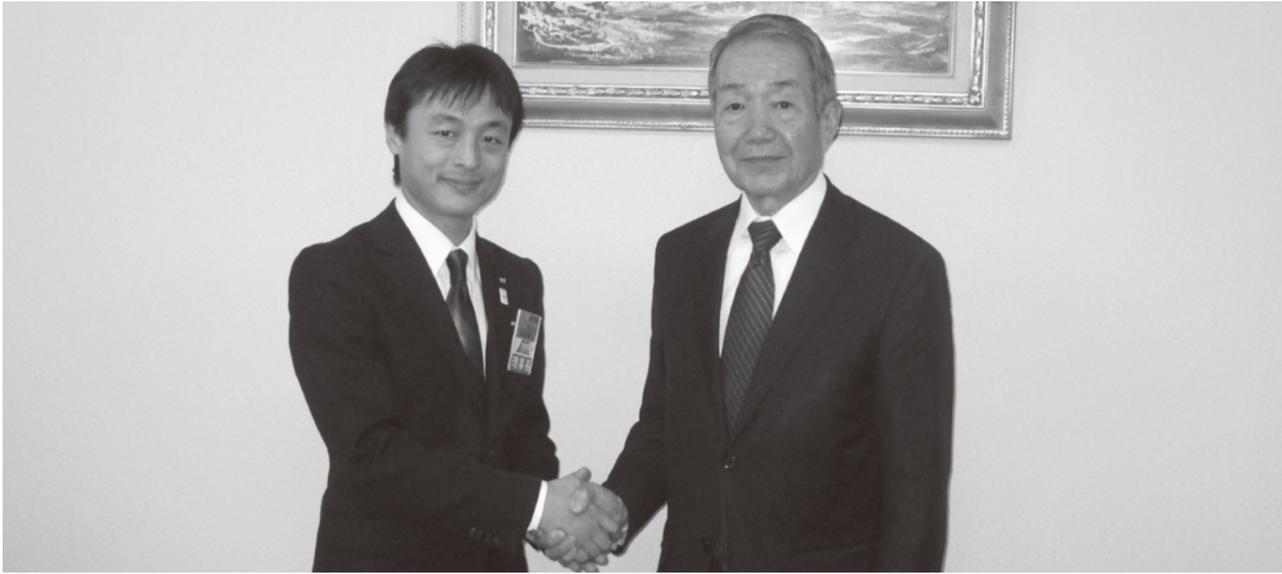


岡山商工会議所 会頭対談

岡山商工会議所 第57代会頭 岡崎 彬×第64代理事長 鈴森 賢史



鈴森理事長：本日はどうぞよろしくお願いたします。
岡崎会頭：こちらこそよろしくお願いたします。

鈴森理事長：まず、岡山商工会議所の役割や課題などお考えがありましたらお話しただきたいと思います。

岡崎会頭：岡山商工会議所は名前の通り地域の発展と経済や産業の振興に関わっています。その中で今年一番の課題は岡山市の発展とイオンモール岡山の開業だと考えています。イオンモール岡山が開業するだけで大きな出来事ですが、そこに多くの方がいらっしゃることで交通問題やまちづくり全体に関わってくる課題だと考えています。

鈴森理事長：産業の振興に関わるということですが、どういった活動が中心になりますか。

岡崎会頭：明治時代は起業する方に記帳の仕方やそろばんの打ち方など基本的なことを指導していました。今でもそれは行っていますが、現在は商店街のディスプレイの配置の仕方から労働問題や給料の問題などありとあらゆる相談にのっています。最近問題になっているのは事業承継、跡継ぎにどの様に会社を引き継ぐか相談をたくさん受けています。また、海外進出をされる方が多いのでそういった相談も増えています。必要とあれば弁護士や会計士といった方々と組んで色々な問題を解決しています。

鈴森理事長：今は若い方が新しい事業を立ち上げる機運が高まっていますが、そういった手助けもされているのですか。

岡崎会頭：もちろんです。創業は良い事です。今は創業より廃業の数が上回っている時代で、企業が減っているのでは何とか増やしたい。創業塾や起業講座を行い企業を増やす努力と新規参入の手助けなどもしています。

鈴森理事長：4月から消費税が増税されましたが、おかやまにどのような影響を及ぼすとお考えですか。

岡崎会頭：景気に与える影響は、3月まで駆け込み

需要で前取りした分、4月がどれだけ落ちるか心配しています。中小企業は増税分を値段に上乗せできるか問題になっています。企業によっては上乗せできず、ますます苦しい立場に置かれています。円安分も転嫁できず増税分も転嫁できないとなると事業として成り立たなくなります。その辺りをどうすれば解決できるか考えています。

鈴森理事長：昨年10月に市長が代わりましたが、岡山市との関わりに変化はありましたか。

岡崎会頭：市長はまだ就任1年に満たない中で、積極的に動かれていてたいへん好印象を持っています。私達とはまちづくりで連携が深く、色々な社会実験を行う予定があるので協力しています。他にもイオンモール岡山とは別に交通問題がありますが、それも岡山市と岡山商工会議所が委員会を作って協議しています。

鈴森理事長：かなり深い連携がありますね。市長が回遊性を高める、魅力づくり、駅前への乗り入れなどをキーワードにされていますが、岡山商工会議所としてどのようにお考えですか。

岡崎会頭：私達も同じことを考えていました。まちは昔から人が住むところと楽しむところがコンセプトですから、市長が目標とされる回遊性を高めることに私は大賛成です。そして、にぎわいを創ることも市長は考えておられると思いますので、全面的に協力していきたいと考えています。

鈴森理事長：市長は国土交通省出身ということもあり、その辺りは得意分野ではないでしょうか。

岡崎会頭：プロです（笑）。岡山商工会議所も路面電車の延長問題や吉備線のLRT化に取り組んでいますが、それらを前に進めるためには行政のちからがなければとてもできません。そういった懸案事項を進めてくれる市長は私達としてたいへんありがたい。

鈴森理事長：この秋にイオンモール岡山が開業予定で、年間2000万人の来客が見込まれていますが、

今後の影響や対策の概要を聞かせていただければと思います。

岡崎会頭：イオンモール岡山が開業することでまちなぎわいに繋げていかなくてははいけません。マイナス面もありますが、まずは街中へひとを流入させる仕組みが必要です。市がおかやまに回遊性を持たせるために援助はできても、その場所に魅力がなければ実現しません。各商店街や各地域は魅力を創り出す自助努力が必要なところ。後楽園や岡山城を含めたカルチャーゾーンについても同じことが言えます。イオンモール岡山に買い物に来たので表町あるいは後楽園に寄ってみよう、という気持ちを興すことができればまちなぎわいの活性化に繋がります。

鈴森理事長：イオンモール岡山は店舗数も多く、一日中遊べますので、その中で完結してしまう方が多いのではと強い危機感を持っています。皆様がせっかく街中へ出てこられるので、まちなぎわいのメリットを最大限活かすことが必要だと思えます。

岡崎会頭：けれど、イオンモール岡山に全てが揃っているわけではなく、そこにはない魅力がまわりにはあると思いますので、それを発揮できれば問題ないと考えています。イオン出店協議会というものを立ち上げました。話し合いの中でイオンモール岡山に関する情報を収集して皆様に情報をお渡しして、一早く対応していただく形をとっています。もし、イオンモール岡山の出店がなかったら現状のままで安泰か、というところではありません。既にシャッター通りの商店街が問題になっているように、やはり改善策は必要なのです。イオンモール岡山の開業はその現象を加速するだけです。これを機会におかやまの活性化のきっかけとしてほしいです。

鈴森理事長：これまで通りのことや、イオンモール岡山と同じことをしていても経営が改善されないことがわかるだけで活気に繋がらそうですね。カルチャーゾーンの話がありましたが、おかやまの魅力を発信するためにますます必要性が増してきますね。

岡崎会頭：政令指定都市の中で、街中に大きな緑地帯や庭園がある都市は珍しい。おかやまは後楽園や運動公園といった素晴らしい場所が街中にある魅力ある都市です。

鈴森理事長：昔からポテンシャルの高い都市と言われていますが。

岡崎会頭：今もそのままですね（笑）。そのままではいけない。まちについて、いつも市民の皆様が関心を持って行動する必要があります。



第52代から6期連続で会頭を歴任
岡山瓦斯株式会社 取締役社長

鈴森理事長：岡山青年会議所に期待することはありますか。

岡崎会頭：昔から岡山青年会議所に対する周りからの期待は変わっていないと思います。まちづくりを担い、リーダーシップを磨いていく場が岡山青年会議所で、そこから巣立ったひとがおかやまを引っ張っています。前市長もOBですし、全部とは言いませんが活躍しているほとんどの人が岡山青年会議所の卒業生です。けれど、運営に関しては時代と共に変更していかなくてははいけません。人数の減少は運営に問題があるのかもしれませんが、あとは、岡山青年会議所の活動が面白すぎるのも問題かもしれません。入会したら活動にのめり込んでしまいますよね（笑）

鈴森理事長：（笑）岡崎会頭ものめり込まれたのですか？

岡崎会頭：楽しかったですね。時代が良かったこともありますが青年会議所活動はやりがいがありました。私は昭和50年の7月に入会して昭和58年に卒業するまで8年半活動しました。第1次、第2次石油ショックがあったとはいえ、まだまだ岡山青年会議所は元気で活気がありました。当時、国鉄・電電公社・専売公社を民営化しようという機運が高まっていて、本田宗一郎さんや瀬島龍三さんと呼んで民営化運動の大会を開いたことが一番の思い出です。石油ショックを受けて、「このまま国に任せては危ない!」と皆たいへんな危機感をもっていました。例会に市長候補を呼んで答弁をもらったこともあります。

鈴森理事長：そういった勢いがある時代と比べると、同じようなことはできないのですが、元気があると思われる活動をしていきたいと思っています。会員拡大も足を使ってひとりひとり説明すると、分かってくる方も増えてきています。

岡崎会頭：営業の基本ですね。相手のところへ行って売り込まないと商品も売れませんから。ひとつは活動そのものの質、もうひとつは会員の増加がないと影響力に繋がりません。

鈴森理事長：会員を増やしてかつての勢いを取り戻せるよう、活動を頑張ってください。

岡崎会頭：人数を増やすだけでなく、自ら入りたいと思える魅力的な活動を行ってください。

鈴森理事長：今後ともお力添えをよろしくお願いたします。